

薬学実務実習ガイドラインに基づいた「病院実務実習」の実施内容（大学提示案：ひな形）

患者・生活者本位の視点に立ち、薬剤師として病院や薬局などの臨床現場で活躍するために、薬物療法の実践と、チーム医療・地域保健医療への参画に必要な基本的事項を修得する。

実習項目	実習内容	延べ実習期間
全ての実習項目で共通	<ul style="list-style-type: none"> ● 臨床における心構え、安全管理 	11 週間
病院実習導入	<ul style="list-style-type: none"> ● 病院における薬剤部門の位置づけと業務の流れを理解する ● 医薬品の供給と管理、安全管理、災害時医療 	0.5 週間
医薬品の調製	<ul style="list-style-type: none"> ● 処方せんに基づく調剤および疑義照会を行う（注射薬含む） ● 注射剤の無菌的混合操作、抗悪性腫瘍薬などのケミカルハザード回避の手技を実践する 	2 週間
医薬品管理	<ul style="list-style-type: none"> ● 適切な医薬品の供給と管理を実践する 	0.5 週間
病棟業務実践 必要に応じて調剤も行う ※ いずれの実習内容も、必要に応じて医師や看護師等へ照会・提案するまでを行う ※ DI および TDM の実習は病棟業務の一環として実施する ※ 実習する診療科は内科を中心とし、実習期間は一診療科あたり最低 2 週間とする ※ ガイドラインに記載の代表的な疾患は、入院時主疾患である必要はない	病院内の多様な医療チームの活動に薬剤師の立場で参加し、医師や看護師等の医療スタッフと連携・協力して患者の治療目標や治療法を考え、患者の治療に積極的に参加する <ul style="list-style-type: none"> ● 新規入院患者から薬物治療評価に必要な情報（薬歴や服薬コンプライアンス、薬効、副作用、OTC・健康食品の使用など）を適切に収集する ● 持参薬について、同効薬の等価用量も考慮しながら、継続・変更・中止を提案する ● 患者情報と臨床検査データから、患者の有する医学的・薬学的問題点を挙げ、医薬品の重複投与や未治療の問題点を把握する ● 各問題点について、その原因・リスクファクターを探索する ● 入院治療のゴールと退院後も含めた長期的ゴールを立案する ● ガイドラインや適切な三次資料を参考に根拠に基づく薬物治療法を選択する ● 必要に応じて、Clinical Question に対する最新の臨床試験成績を検索し、治療に還元する ● 病歴や薬歴、患者の自覚症状、肝・腎機能、その他各種臨床検査データ、併用薬、医薬品添付文書情報、薬効や副作用の現れ方などから、臨床薬物動態学の知識を活用して、現処方薬の用法と用量（注射薬の投与速度、投与ルートを含む）が適切であるか評価する ● TDM 対象薬の血中濃度測定値を適切に評価し、再投与設計を行う ● 処方薬の薬効と副作用を、適切な評価指標に注目して、継続的にモニタリングする ● 入院中に生じる治療上の問題点をチーム医療の一員として他の医療スタッフと共有し、薬剤師の視点から解決策を提案する ● 患者の心理・社会的背景に配慮しながら適切な服薬指導を行う ● S・O・A・P の各要素を認識したうえで薬剤管理指導の内容を記録する 	8 週間